

試案 社会分析の手段としての巡検

岐阜県立大垣桜高等学校 安部 博貴

1. 地域調査に当たって－問題の所在－

(1) 巡検を取り巻く問題（外在的問題）

本小稿に与えられた課題は、授業で地域調査がより積極的に展開されることを視野に入れながら、2時間程度で実施できる巡検を組み込んだ、地域研究を目的とする社会科地理の授業を開発することである。そのためにまず、巡検を授業で行う際に伴う現実的な問題を整理したい。

問題の第一は、巡検を取り巻く環境についてである。恥ずかしいことであるが、私は勤務高で地理Aを担当しているものの、元来地理プロパーではない。巡検に関するトレーニング、特に地形図などが関連する自然地理へのトレーニングが不足している。

また、授業時間中に生徒を校舎外に連れ出すと、交通安全などの安全管理面が大きな問題になる。これも、現時点では勤務高においてクリアされているとは言い難く、授業時間中への巡検導入には二の足を踏んでいる。

(2) 巡検の中にひそむ問題（内在的問題）

問題の第二は、巡検そのものが内部に抱え込んでいる問題である。それは、巡検を行う意義を何に求めるかということである。初等教育段階の生活科・社会科授業では、「私たちの町たんけん」というような単元で、地元の町や商店街に出かける実践が数多くなされている。それらと高等学校段階で行う巡検は、意義が異なるものであろう。また、プライベートでの旅行などとは違い教育的意義を明確にしなくてはならない。

2. 社会分析の手段としての巡検

それでは以上の課題を克服する、現実的に実行可能で、社会科地理として教育的意義のある巡検の姿とはどのようなものであろうか。その一つとして本小稿では、巡検を社会分析の手段としてとらえたい。単元展開案は次頁以降に示し、問題解消の方向性のみを以下に記す。

(1) 巡検を取り巻く問題（外在的問題）の解消

まず、巡検を長期休業中（冬季休業）の課題として生徒に課すことによって、安全管理問題はクリアした。次に、「防犯カメラ探し」を課題とすることで、人文地理学の領域が学習内容となり、社会学などの隣接領域の成果が容易に援用できるようになった。

(2) 巡検の中にひそむ問題（内在的問題）の解消

「社会科地理」の成立根拠を解明した草原和博氏は、地域の自然環境と人文・社会環境の要素を、またその関係を隈なく押さえ把握すること、つまり地域を分かることそれ自体に価値を見いだそうとする地理教育を批判する。その理由は、学習者の関心を、人間の諸要素とその関係に焦点化させてしまい、社会そのものの理解を妨げるからであるとする。

氏が擁護するのは、地域を社会理解の素材を提供する空間的枠組みとしてとらえ、それによって質の高い社会認識形成を保障しようとする「社会科地理」の立場である。その理由は、民主主義社会の成員となる子どもたちには、地域だけではなく、社会のシステムを知り、そこに内在する諸問題を解決し、自分たちが形成する社会のあり方を決定していく責任があるからである。

本小稿も草原氏の立場に立ち、巡検による地域研究を社会分析の導入として位置づける。具体的には、近年急激に増加しつつある「防犯カメラ」を見つけることを巡検課題の内容とすることによって、監視社会となりつつある現代社会の構造を分析させたい。

なお草原氏の著作については、『地理教育内容編成研究－社会科地理の成立根拠－』風間書房、2004年、を参照されたい。

3. 単元計画試案

- ① 単元名 : 多様さを増す人間行動と現代世界
- ② 単元の目的 : 監視が日常化されつつある生活空間の構造を解明する。
- ③ 到達目標 :
- ・ 防犯カメラを見つけるために、安全にフィールドワークができる。
 - ・ マナーに気をつけながら、防犯カメラ設置理由をインタビューできる。
 - ・ 監視が日常化されつつあることに気づき、その理由を解明しようとする。
 - ・ 身近な事例について、監視社会の是非を自分なりに立論できる。
- ④ 単元の実際 : 下表の通り。

	主な問い	主な学習活動
小 単 元 1	どのようにフィールドワークをしたらよいか？ (巡検課題の提示・説明)	(1) スーパー、本屋、CDショップ、公共施設、駅、商店街など、いたるところに防犯カメラが設置されている現状を説明する。 (2) ワークシートを配布し、巡検課題を説明する。 (3) 巡検活動時の安全面について、調査結果の記録方法について説明する。(どこにカメラは設置されているか？を調査させる目的) (4) インタビュー時のマナーについて説明する。(なぜカメラは設置されているか？を調査させる目的)
長期休業中に巡検調査活動を実施させる		
小 単 元 2	防犯カメラはどこにあるか？ なぜカメラが設置されているのか？ (巡検課題の集約・分析)	(1) 学校周辺の地図を模造紙に印刷しておき、黒板にはる。 (2) 生徒にシールを渡し、各自がカメラを発見した場所を説明させながら貼らせる。 (3) 完成した地図を全員で確認する。その際、設置場所を類型化する。(小売店舗、商店街、公共施設、駅、個人の住宅など) (4) インタビュー結果を発表させ、カメラ設置理由をまとめる。(防犯対策、機械設備の監視など)
小 単 元 3	カメラが設置されることに、賛成か？ 反対か？ その理由は？ (意思決定・討論)	(1) 生徒指導部と連携し、学校周辺での変質者頻出スポット、交通事故頻発スポットを紹介する。 (2) 「変質者被害防止、交通事故被害防止のために、通学路の要所に防犯カメラを設置してはどうか？」と提案する。 (3) 上の提案に対して意志決定させ、討論させる。その際、主張の根拠を明確にさせる。

資料 生徒へ配布したワークシート

地理A 冬休み課題 フィールドワークのワークシート

『防犯カメラ・街頭カメラを見つける！！』

カメラの所在地（施設名、店名、商店街名、詳細な所在地）

カメラのイラストや写真（店内で写真を撮る場合は、許可を得ること）

カメラ管理者へのインタビュー

1. 誰にインタビューしたか？
2. いつからこのカメラは設置されているか？
3. 何のために設置されているか？
4. データはどれくらい保存されるのか？（録画している場合）

感想・コメント・気づいたこと・感じたこと

4. 本試案の限界

本試案は、監視が日常化されつつある日常生活の構造を解明することを目的としている。そうではあるが、「2時間程度で実施可能」という条件制約により、

本試案は、巡検課題を導入することによって、監視が日常化されつつある日常生活の構造を解明することを目的とした。そうではあるが、本小稿に与えられた「2時間程度で実施可能」という条件制約により、その目的が十分果たされているとは言い難い。小单元2における監視社会の分析が不十分なままであるからである。そのため、学習者の社会認識を揺さぶることも不十分なままであり、結果、常識的な社会認識レベルにとどまってしまうことが懸念される。理想的には、小单元2で生徒の巡検活動の様子をまとめた後に、教師指導のもと、さらにつつこんだ分析を行い、学習者の社会認識をより科学的なものへと再編していく必要がある。小单元2、3の改良については後日の課題としたい。その際には、以下の著作が理論的基盤になると思われる。

- ・ ディヴィッド＝ライアン『監視社会』青土社、2002年
- ・ ディヴィッド＝ライアン『9・11以後の監視』明石書店、2004年
- ・ M. フーコー『監獄の誕生』新潮社、1977年 など

資料 数々の監視カメラ（防犯カメラ販売企業イーテックのHPより加工、転載）



↑夜間でも撮影できる高感度カメラ



↑ドーム型カメラ



↑ダミーカメラ